

令和3年度

奈良県公立高等学校入学者一般選抜学力検査問題

# 国語

## 注意

- 1 指示があるまで開いてはいけません。
- 2 解答用紙には、受検番号を忘れないように書きなさい。
- 3 解答用紙の※印のところには、何も書いてはいけません。
- 4 答えは必ず解答用紙に書きなさい。

一

次の文章を読み、各問いに答えよ。

この部分については  
著作権により公表できません

この部分については  
著作権により公表できません

この部分については  
著作権により公表できません

(三浦しをん『魚の記憶』による)

(注) ようけ||たくさん 卓袱台||四脚の低い食卓  
はよせんと||早くしないと ほかしたら||捨てたら

(一)  A、Cの漢字の読みを平仮名で書き、 B、Dの片仮名を漢字で書け。

(二) 線①の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 上手に    イ 用意周到に    ウ 冷静に    エ 臨機応変に

(三) 線②とあるが、「私」をいっそう悲しくさせたのはどのようなことか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 魚の天ぷらを食わずに捨てるとバチが当たってしまうということ。  
イ 食べようと思っていた魚の天ぷらを妹に食べられてしまったこと。  
ウ 妹よりも食べ物の好き嫌いが激しい自分の幼さに気づいたこと。

(四) 線③は、具体的にどのようなことを指すか。文章中の言葉を用いて書け。

(五) 線④は、魚をまえにしたときの「私」の心情を表現したものである。この表現とほぼ同じ内容を表している言葉を、文章中から十字で抜き出して書け。

(六) この文章からうかがえる妹の性格として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 勝ち気で物おじしない性格    イ 穏やかで落ち着いた性格  
ウ 感受性が豊かで繊細な性格    エ 思いやり深く優しい性格

(七) この文章の表現上の特徴について述べたものとして適切なものを、次のア～エからすべて選び、その記号を書け。

ア 改まった言葉遣いで交わされる会話を描き、魚を食べることに対する、家族と「私」の認識の違いが生み出す緊迫感を伝えている。

イ 「私」がおそろおそろ料理をしている様子を擬態語を用いて描写し、生き物の命を奪うことに「私」が恐怖を感じていることを表している。

ウ 過去の回想と現在の「私」の様子や気持ちを交互に語ることで、魚に対する「私」の思いを説き明かしている。

エ 魚との問答の中で「私」が何度も同じ言葉を繰り返して述べることで、魚に自分の思いを強く訴えていることを表している。

オ 終始「私」の視点から語ることで、読み手を「私」と同化させ、魚にまつわる「私」の思いについて共感しやすくしている。

次の文章を読み、各問いに答えよ。

近代科学としての地理学と歴史学の分類は、カントが、「地理学は相互に隣接している事象の記述であり、空間と関連する。」、また「歴史学は相互に継起する事象の記述であり、時間と関連がある。」としたこと<sup>①</sup>に由来する。簡略に表現すれば、地理学を「空間的並存」の状況を記述する学問、歴史学を「時間的継起」の様相を記述する学問、と定義したのである。

確かに、空間の概念と時間の概念は別のものであり、空間と時間を理論的に区別することはできない。近代以後の、地理学と歴史学の研究対象の違い、あるいは地理の学校教科書と歴史の学校教科書にみられる違いは、カントによるこの分類に端を発すると言ってもよいであろうし、現在もその基本は変わっていない。

しかし、現実の空間の様相と時間の経過はどうであろうかと考えるとすれば、私には別の感覚が頭をもたげ<sup>②</sup>てくる。

唐突に個人的経験を語ることになるが、私は空間の違いと時間の経過を、一つの事例から同時に実感したことがある。それは、言葉をめぐる印象的な体験であった。

もとより人間社会にとって言葉は、意思を疎通し、情報を伝達したり、それを蓄積したりするために不可欠である。言葉が人間の文化の基礎をなすことは改めて言うまでもない。その言葉が、例えば日本とフランスでは異なっていて、言葉を含むそれぞれの文化が、異なった空間において並存している状況は、確かに地理学にとっても重要課題となりうる。

私が体験した一つの事例とは、用務のためにかつてパリを訪れた際のことであった。その折、<sup>③</sup>パリ在住の日本人に通訳をいただいた。フランス語ができないから通訳の世話になったのであり、通訳のフランス語について評価することはできない。しかし、おそらくは立派なフラン

ス語であったと思われ、用務はきわめてスムーズに進行した。

違和感があったのはむしろ、通訳の日本人が話す日本語のほうであった。その折に年配の通訳が話した、非常に丁寧な日本語は、現在からすれば随分古めかしい日本語だったのである。

その日本語はおそらく、通訳が若い時に日本で修得したものとと思われる表現であった。私自身もおぼろげに、若い時に聞いたことがあったような気がするものの、現在の日常からは遠くなってしまう言葉遣いだったのである。その古めかしい日本語は、現在の日本において、ほとんど使われなくなった。ところがパリ在住の日本人通訳はおそらく、変化する日本語を更新する機会もままに、旧態を維持したものであろう。

このように、異なった空間に並存しながらも、時間の経過によって、相互に異なった状況を呈する日本語の存在、といった現象を説明することができるのは、おそらく空間の側面からだけでなく、時間の側面からだけではできないと思われるのである。

パリにおいて耳にした日本語について、私が感じた印象は次のように言い換えることができそうである。つまり、いろいろな空間に存在するさまざまな事象（例えば日本語）は、すべてが時間的（歴史的）な存在（変化する。あるいは更新するか、しないか）であることの一証である。このことは逆に見れば、すべての歴史的現象は、それぞれが空間的に展開するという意味において、空間的存在であるとも言えよう。

先の言葉の例に戻れば、この四十、五十年間における日本語の変化は、決して小さくない。戦後間もないころの人々が話した言葉は、すでに口語で記されたり、録音されたりした記録があるので、容易に確認できるであろうが、それと現代のわれわれが耳にする日本語はかなり異なっている。

ところが『源氏物語』や『平家物語』などの古典の日本語と、現代の日本語との違いはさらに大きい。<sup>④</sup>言語が人間社会の文化の基礎であるこ

とは繰り返すまでもないが、その変化には人間社会の存在、人々の社会集団が必用である。一人だけの言葉の違いでは、それが別の人に通じたとしても、その一人の個性でしかないであろう。そもそもそれでは、情報伝達や蓄積を目的とした言語の役割を、完全には果たさない。言語の変化には、時間の経過に加えて、一定量の人間社会からなる空間が不可欠なのであろう。

改めて言い換えると、すべての空間的事象は時間的（歴史的）存在であり、すべての歴史的事象は空間的存在であることになる。空間を考へるために歴史過程への視角を保ち、また歴史過程を考へるために空間への視角を保つことなくしては、さまざまな事象の実態へは十分に接近し難いことになる。前者が地理学の側からの歴史地理学の視角であり、後者における歴史学の側からの視角もまた、同様に歴史地理学と呼ばれる。つまり、歴史地理学は「空間と時間の学問」と言うべきであり、歴史地理学は、カント以来の歴史学と地理学における空間と時間のギャップへの、架け橋の役割をも果たすことになる。

（金田章裕『地形と日本人』による）

（注）カント＝ドイツの哲学者 必用＝必要 視角＝視点

- (一) 線①とほぼ同じ意味で用いられている言葉を、文章中から五字で抜き出して書け。
- (二) 線②と同じ働きをしている「くる」を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。  
ア 喜びの便りがくるのを待つ。 イ もうすぐ一雨くるようだ。  
ウ 留学生が私のクラスにくる。 エ よい考えが浮かんでくる。
- (三) 線③とあるが、この通訳が話したフランス語と日本語の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア フランス語はフランス人にとって違和感のない言葉遣いのようなだが、日本語は発音が不明瞭で伝わりにくいものであった。

イ フランス語はとも流ちょうな話しぶりだったが、日本語は言葉遣いに誤りがあり、どこかたどたどしさを感ぜさせるものであった。

ウ フランス語は用務に役立つものであり、日本語はたいそう丁寧で時代がかった、現在の言葉遣いとは合わないものであった。

エ フランス語も日本語も、若々しさは感じられないものの、とても美しい言葉遣いであり、上品な人柄が伝わってくるものであった。

(四) 線④とあるが、筆者が言語や言葉を人間社会の文化の基礎だと考へる理由に当たる一文を、文章中から抜き出し、その初めの五字を書け。

(五) 線⑤とあるが、このように筆者が述べるのはなぜか。その理由を、文章中の言葉を用いて四十字以内で書け。

(六) この文章の論理の展開の仕方について述べたものとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 筆者の体験に基づいて仮説を立て、その妥当性を複数の視点から検証し、新たな定義として整理している。

イ 一般的な考えを説明した上で、筆者の実体験を根拠として自らの見解を解説し、結論づけている。

ウ はじめに複数の事例を挙げ、そこから共通して読み取れることを筆者の主張として示し、論をまとめている。

エ 身近な課題から書き始め、その背景の分析と検討を重ねた上で、筆者の考へる解決策を示している。

三

次の□内の文は行書で書かれている。楷書で書くときと筆順が異なる漢字はどれか。当てはまるものを、後のア～オからすべて選び、その記号を書け。

山の緑に花の色が映える。

ア 山 イ 緑 ウ 花 エ 色 オ 映

四

次の文章は、役者の考えを記録した江戸時代の書物『耳塵集』の一部である。これを読み、各問いに答えよ。

我も初日は同じく、うろたゆるなり。しかれども、よそめにしなれたる狂言をするやうに見ゆるは、けいこの時、せりふをよく覚え、初日は、<sup>②</sup>ねから忘れて、舞台にて相手のせりふを聞き、その時おもひ出してせりふをいふなり。その故は、常々人と寄り合ひ、あるいは喧嘩口論するに、かねてせりふにたくみなし。相手のいふ詞を聞き、<sup>③</sup>こちら初め返答心にうかむ。狂言は常を手本とおもふ故、けいこにはよく覚え、初日には忘れて出るとなり。

(注) 初日＝舞台の最初の日 うろたゆる＝うろたえる

よそめにしなれたる＝他の人から見てやり慣れた

たくみなし＝用意しておくということはない うかむ＝浮かぶ

(一) 線①を現代仮名遣いに直して書け。

(二) 線②とあるが、「ねから忘れる」とはどういうことか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア すっかり忘れるということ イ うっかり忘れるということ

ウ 緊張して忘れるということ エ 知らぬ間に忘れるということ

(三) 線③と「我」が述べるのはなぜか。その理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 互いに相手の言葉をよく聞いてその場に合うせりふを即興で話すことが、稽古以上に優れた狂言をするためには必要だから。

イ 本番の舞台で息の合った狂言ができるように、すべてのせりふを十分に理解して話すことを日々の稽古で徹底しているから。

ウ 狂言においては、本番の舞台でせりふを間違えないことよりも、表情やしぐさと合わせて自然に話すことの方が大切だから。

エ 相手への言葉は、事前に準備するものではなく、相手の言葉を受けて出てくるという日常を手本として狂言をしているから。

五

春香さんの中学校では、卒業を控えた三年生が後輩に伝えたい言葉と、その言葉についての思いを文章に書き、冊子にまとめることになった。次の□内は、春香さんが書いた「文章の下書き」である。これを読み、各問いに答えよ。

【文章の下書き】

努力を放棄された理想は、単なる空想か、漠然とした憧れにすぎない。単なる空想なら現実になるわけがない。理想を実現しようと努力することこそが現実なんだ。

(池田晶子)「14歳からの哲学 考えるための教科書」

同書の95頁6行目から8行目より

これは、私が部活動でなかなか結果を出せずに悩んでいたときに、先輩から教わった言葉です。そのときの私は、先輩の意図がわからず、「こんなに頑張っているのに。」と、素直に受け止めることができませんでした。

しかし、後日この言葉が書かれた本を読み、先輩と話をして、私は知ったのです。これは、私の努力不足を責めるものではありませんでした。先輩の意図を知った私は、その優しさに胸が一杯になりました。心が軽くなった私は、再び前向きに練習に取り組むことができ、次の記録会では自己最高記録を出すことができました。それ以来、この言葉は、私を前向きな気持ちにしてくれる大切な言葉です。

先輩から受け取った大切なこの言葉を、感謝と激励の気持ちを込めて、皆さんに贈ります。

(一) 線部と同じ品詞の語を、【文章の下書き】の~~~~線ア〜エから一つ選び、その記号を書け。

(二) 春香さんは、【文章の下書き】の<>のところの□内の一文を書き加えることにした。そのねらいとして最も適切なものを、後のア〜エから一つ選び、その記号を書け。

理想を見失わずに努力し続ける私を認め、励ますための言葉だったのです。

ア 不足している内容を加え、読み手に思いを正確に伝えようとする。  
イ これまでの内容をまとめ、読み手にわかりやすく伝えようとする。

ウ 話題を転換し、読み手に異なる考えを新たに伝えようとする。

エ 別の具体例を追加し、読み手に説得力をもって伝えようとする。

(三) 春香さんは、先輩から教わった言葉が自分を前向きな気持ちにしてくれると述べているが、あなたを前向きな気持ちにしてくれることについて、次の①、②の条件に従って書け。

条件① 二段落構成で書くこと。第一段落では、あなたを前向きな気持ちにしてくれることを具体的に書き、第二段落では、それについてのあなたの思いを書くこと。

条件② 原稿用紙の使い方に従って、百字以上百五十字以内で書くこと。ただし、題、自分の名前は書かないこと。